

身近な自然を守り、
育てるためのプログラムづくり
(基礎編)

現状分析

現状を把握するため、インターネットや文献から大阪府内のビオトープ実施している小学校を探し、ヒアリング調査を行なう。

ビオトープを実施している小学校

25 校

回答をいただいた小学校

9 校



現状分析

主な回答

- ・そのほとんどの小学校では、校内に池をつくり、児童たちがそこに生息するメダカやトンボの観察を行なっている。
- ・ほとんどの小学校では学校ビオトープについて将来の計画についてしっかりしたものは持っていない
- ・ビオトープをつくったもののビオトープの取り組みを起案した先生が他校に転任して、環境教育について関心が薄れていく

ヒアリングの結果

運営面や維持・管理面での問題が浮き彫りとなる。



事業の概要

学校ビオトープの問題

- ・ビオトープに関する知識不足
- ・ビオトープに計画性がない
- ・地域の特性を活かしたプログラムの必要
- ・維持・管理を誰が担うのか
- ・中心的に取り組む職員の後継者問題



そこで…。

- ・継続的に行なうことができるように維持・管理体制を整える。
- ・ビオトープを活用する教職員や児童だけでなく、地域の住民や専門家との協働をはかり、それぞれの役割を確認する。

事業の概要

事業内容

学校ビオトープの意義を深めるとともに、地域住民、行政、NPOが協働して取り組む事業の一つの形をつくりあげていくことを目的としたワークショップの開催を提案する。



期待できる効果

- ・身近な自然環境の保全、創造、再生の活動が活発化
- ・地域の住民や小学生が、自分たちが生活している地域のことを知り、考えるきっかけづくり
- ・主体的に「自然と共生したまちづくり活動」(小学生においては将来的な)に参画していける組織づくり

事業の詳細

01 ワークショップ準備(9月)

小学校の選定

特定の「小学校」あるいは「小学校区」について本事業への参加を求めることから始める。小学校については現在、協力を要請している段階である。

専門家との打ち合わせ

地域の人々が地域の自然条件を的確に捉え、理解するために専門家がこれをサポートする。

事業の詳細

02 地域を知るワークショップ(10月～11月)

野外調査とワークショップの開催

地域の自然環境を知るため野外調査を行なう。
その後、ワークショップ(1回程度)を開催し、参加者の意見を抽出する。



専門家との打ち合わせ

野外調査・ワークショップの後に専門家との打ち合わせを行い、今後のプログラムに関して調整を行なう。

事業の詳細

03 地域環境をまとめる(12月)

地域の自然環境マップづくり

野外調査やワークショップで出た意見を、地域の住民を中心にマップへとまとめていく。



専門家との打ち合わせ

マップをとりまとめた後に専門家との打ち合わせを行い、今後のプログラムに関して調整を行なう。

事業の詳細

04 環境教育プログラム(1~2月)

環境教育プログラムの作成

- ・教職員、地域住民、専門家を交えワークショップの手行なう。
- ・今後ビオトープを児童が教材として活用できるものを考える。
- ・管理の視点を考慮する。



環境教育プログラムの具体化

大まかな方向性をワークショップで決めた後に、具体的な内容、綿密なスケジュールを専門家、行政、NPOで行なう。

事業の詳細

05 とりまとめ(3月)

環境教育プログラムの公表

具体化した環境教育プログラムを教職員や地域住民に公開する。

報告書の作成

今年度の事業を取りまとめたものとして報告書を作成する。

事業の詳細

来年度への展開

本年度中に作成した「その地域なりの環境教育プログラム」については、来年度以降に、実践編として実行していくことを目標とする。